

**令和元年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会
胃がん部会 概要**

1 日 時：令和元年12月11日(水) 13:00～14:20

2 場 所：岐阜県シンクタンク庁舎 1-1会議室

3 出席者：

	氏名	所属
委 員	吉田 和弘	岐阜大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学分野教授
	後藤 裕夫	岐阜赤十字病院放射線科部長
	鳥澤 英紀	岐阜県医師会 常務理事
	吉川 典子	ぎふ総合健診センター 診療放射線技師
	迫口 理絵	市町村保健活動推進協議会保健師部会（輪之内町）
オブザーバー	氏平 高敏	飛騨保健所 所長
事務局	加納 美緒	次長兼保健医療課長
	赤尾 典子	健康推進室長
	井上 玲子	主幹兼がん対策係長
	中島 早映	技術主査

4 内 容：

報告：1 平成30年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会胃がん部会議事

議事：2 岐阜県のがんの現状等

- ・岐阜県の胃がん死亡率は、特に女性において全国に比べ高い傾向が続いている。
- ・県内がん登録の結果から、岐阜県は早期の胃がん（ステージ0～I期）で発見される者が増えている。しかし、依然全国に比べて胃がんステージⅢ～Ⅳ期で発見される者の割合が高い。死亡率減少のためには、より早い段階での発見に努めていく必要があり、検診や有症状時の早期医療機関受診の啓発普及が大切。

3 市町村が実施する胃がん検診の精度管理について

(1) 正しいがん検診の実施

- ・市町村検診における検診結果の誤通知があり、原因はヒューマンエラーであった。今後、再発防止のため、県からは市町村及び検診機関に対し、マニュアルの遵守やダブルチェック等、適切ながん検診体制について改めて啓発を行っていく。
- ・有症状者の検診受診は、訴える症状も様々であり、一律で検診を受けさせないのも問題。ただし、検診の対象者は無症状であることについて周知し、受診者に理解してもらう必要がある。検診予約等受付時に丁寧な説明と対応を行うこと。
- ・胃内視鏡検診を実施する市町村は増加。検診の体制整備には地域毎の課題もある

が、体制の整っている自治体の取組みをモデルケースとして横展開を図っていくと良い。県医師会、行政で連携し、市町村の積極的な取組みを支援していく。

- ・指針に基づかないABC検診をリスク検診として実施している市町村がある。リスク検診とがん検診は異なることを住民にわかりやすく説明することが必要。また、対策型検診としては推奨されていない旨については再度通知し、指導を行う。

(2) がん検診マネジメント

- ・がん検診の「事業評価のためのチェックリスト」は全ての検診機関で実施する必要がある。
- ・プロセス指標の精検受診率の向上に取り組んでいくことが大切。要精検率等も経年的な推移を確認し、必要に応じて指導や公表を行う等検討していく。

(3) がん検診の受診率向上対策

- ・山県市の受診率向上の背景には胃内視鏡検査導入の影響が考えられる。積極的にデータを活用し、医師会等の協力を得ながら胃内視鏡検査の推進に取り組んでいく。

⇒ 上記協議結果について、市町村及び検診機関への通知を行い、フィードバックする。